

- 1 単元名 友だちにわかるように、話そう ～「あったらいいな、こんなもの」～
- 2 目 標
- ・自分で考えたものについて、相手に分かるように話したり、友達とやり取りをしたりしようとする。 (関心・意欲・態度)
 - ・話す事柄を順序立て、聞き手に分かるように話すことができるようになる。 (話す・聞く)
 - ・姿勢や口形、声の大きさなどに注意して、はっきりした発音で話すことができるようになる。 (言語についての知識・理解・技能)
- 3 単元構成 (全14時間)
- 第一次 本文「あったらいいな、こんなもの」を読み、「あったらいいな」と思うものを想像し、学習の見直しをもつ。 (3時間)
- 第二次 自分が「あったらいいな」と思うものを知らせるために、発表の内容を考える。(4時間)
- 第1時 自分の思いをふくらませるための方法を知る。
- 第2時 「あったらいいな」と思うものを2人組で話し合い、考えを深める。・・・(本 時)
- 第3時 伝えたいことを発表メモに書き、発表の順序を考える。
- 第4時 絵を描いて具体的なイメージを持ち、伝える工夫を考える。
- 第三次 スピーチ練習と準備をする。 (3時間)
- 第四次 発表と学習のまとめをする。 (4時間)
- 4 指導上の立場
- 教材について
- 本文「あったらいいな、こんなもの」は、単元の2ページ目に児童が大好きなドラえもんの挿し絵が大きく描かれており、学習者が興味を持って取り組めるような構成になっている。また、話し合う内容は、空を飛ぶものや果物が1年中なっている木など、この時期の児童が無理なく自由に想像できる見本になっている。したがって、児童の学習意欲の大きな原動力になるとと思われる。ただし、この挿絵を積極的に活用しながらも、自分の創意工夫から楽しいものが考えられるようにしたい。
- また、「あったらいいな」と思うものについて、なぜそれを思いついたのかという理由をはっきりさせることを提示している。学習においても、自分の考えに裏付けられたものであると、より具体的な発想が生まれてくると期待し、個性や生活に根ざした思いを引き出せるようにしていきたい。
- 児童について

削除しています。

- 具体的な指導の手だてについて
- 生活の中で、話したいという意欲だけでは、相手に自分の思いを十分に伝えきれないことが多い。また、相手の思いを詳しく知るためには、うまく質問することも必要である。それを経験させるために、次のような手だてを考えた。まず、教師がある物を提示し、その情報を少しだけ与える。子ども達は足りない情報を質問していく。その時に、話す事柄を順序立てて構成し、自分の考えをまとめていきながら、「どんな形」「どれくらいの大きさ」「どんな使い方」など、「ど」のつく言葉が質問として有効であることを実感させていく。本時では、2人組を活用して、頭の中にある漠然とした発想(2文)が、友達のアドバイスや質問で、より具体化し(5文程度)深まっていく過程を経験させたい。
- 次時の学習では、発表のために話す事柄をカードに書き出し、順序よく話す活動を取り入れる。ここでは、原稿をもとにして聞き手に分かりやすく話せるように、一枚にひとつの事柄を書かせるように配慮したい。また、発表の練習では、友達に聞いてもらうだけでなく、ビデオなどの視聴覚機器を活用して、自分の姿や発表の仕方を自分で見るができるようにし、自己評価に生かせるようにしていきたい。
- 本校の研究主題は、「児童の確かな学力向上をめざした言語活動の充実～国語科を中心にして～」である。本単元では聞くことから始まり、自分の思いをうまく伝える話し方を身につける言語活動を設定している。これは本校研究主題にもせまり、あわせてPISA型読解力の結果を踏まえた指導の改善にある「テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成」に合致するものと考えている。

5 本時案 (第二次 第2時)

目 標	「あったらいいな」と思うものについて、友達に説明をすることができる。	
学 習 活 動	教 師 の 支 援 と 指 導 上 の 留 意 点	評 価
<p>1 話し手は「ど」を意識して話すことよ確認する。</p> <p>2 本時のめあてを確認し、2人組で話し合う。</p> <div data-bbox="323 638 1185 712" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「あったらいいな」と思うものについて話し合いをしよう。</p> </div> <p>3 本時のまとめをする。</p> <p>4 次時の学習を知る。</p>	<p>○前時の「ど」がつく質問によって、足りない情報を得ることができたことを振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな形ですか。 ・どれくらいの重さですか。 ・どうやって使うのですか。 ・どんなところが便利ですか。 <p>○自分の説明不足で生じた質問に答えることで、相手に分かりやすい説明になることを伝える。</p> <p>○2人組で話し手と聞き手になって話し合う。次に、話し手と聞き手を交代して話し合いをする。</p> <p>○掲示してある話形を確認し、仲良く節度ある話し合いができるようにさせる。</p> <div data-bbox="509 947 1169 1384" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ぼくがあったらいいなと思うのは・・・です。</p> <p>◎名前は・・・です。</p> <p>●どんな形ですか。</p> <p>◎・・・の形をしています。</p> <p>●どんな重さですか</p> <p>◎・・・くらいの重さです。</p> <p>◎・・・ができるくらいの重さです。</p> <p>●どうやって使うのですか。</p> <p>◎・・・をして使います</p> <p>●どんなところが、便利ですか。</p> <p>◎・・・をするときに・・・ができます。</p> <p>◎ほかにも、・・・ができます。</p> </div> <p>○話し合いが滞っている2人組には、「ど」がつく質問の掲示物を参考に話し合いを進めるように、支援する。</p> <p>○「あったらいいな」と思うものの具体的なイメージができず、質問の答えに困っている児童へは、なぜそれを思いついたのかという理由へ振り返らせ、思いをふくらませる支援をする。</p> <p>○話し合いの後の、質問に答えた内容を元に、話す内容をワークシートに書き込む。</p> <p>○ワークシートに説明が5項目以上書き込まれているか確認する。</p> <p>○ 次の学習は、ワークシートを元に、話す順番を工夫し、5文以上の発表原稿を書くことを伝える。</p>	<p>A：自分の考えを詳しく伝えるために6項目以上の説明をすることができる。</p> <p>B：自分の考えを詳しく伝えるために5項目の説明をすることができる。 (話し合い) (ワークシート)</p>
資料・準備物等	前時の掲示物 (前時の振り返り用), ワークシート, 話形の掲示物	

※ 参考文献 「新しい国語の授業－言語活動の充実で活用する力を育む」
大越和孝 成家亘宏 藤田慶三 編著 東洋館出版社 (2009年)